

内閣府本府政策評価有識者懇談会（第 56 回）議事要旨

1. 日 時 令和 7 年 3 月 24 日（月）13:30～14:16

2. 場 所 中央合同庁舎第 8 号館 5 階共用 B 会議室

3. 出 席 者

（委員）

座長	白石 小百合	横浜市立大学国際商学部教授
	小野 達也	追手門学院大学地域創造学部教授
	佐藤 徹	高崎経済大学地域政策学部、大学院地域政策研究科教授
	佐藤 主光	一橋大学経済学研究科教授
	横田 響子	株式会社コラボ代表取締役

（内閣府）

岡本 直樹	内閣府大臣官房政策立案総括審議官
永山 寛理	内閣府大臣官房政策評価広報課課長
入野 史也	内閣府大臣官房政策評価広報課課長補佐

4. 議題

- （1）内閣府本府政策評価基本計画（第 8 次）（案）について
- （2）令和 7 年度内閣府本府政策評価実施計画（案）について
- （3）今後のスケジュールについて

5. 議事要旨

○ 議題 1 及び 2

事務局より資料 2、6 に基づき説明。委員の主な御発言は以下のとおり。

- ロジックモデルの作成の際について、3 つ目のところに「施策目標に対する寄与度が小さい要素を捨象し、重点化したロジックモデルとなっているか」と記載があるが、「寄与度が小さい要素を捨象し」という表現の意図するところを確認したい。これは読み方によっては、いろいろな取組をしているが、結果があまり期待できない部分は記載不要と読めてしまうので、「寄与度を確かめる必要性が低い」等表現方法について検討いただきたい。（小野委員）

- 今回、「中目標（アウトカム）」について、１段階ないしは複数段階で記入となったが、例示として２段階の場合は「短期アウトカム」と「長期アウトカム」と表現されている。一番右端にある「施策目標（インパクト）」は最終ゴールに当たるもので「施策の実施によって最終的に実現することをめざす状態」と書かれているが、「施策目標（インパクト）」が何年先、いつ頃の目指す状態を示しているのか様式上に書いてあるか。その辺りの目安が実際にあるのとならないのでは、評価書の書きやすさが変わってくると思われる。また、中目標で２段階となり、「長期アウトカム」と書いてあるので、「長期アウトカム」よりもさらに長いスパンのアウトカムが一番右端の「施策目標（インパクト）」になると考えられる。仮に「超長期」と呼ぶとして、「中目標（アウトカム）」の２段階目を「長期」と書くことなど文言の使い分けについて検討いただきたい。（佐藤徹委員）
- 外部要因について、明示的に記載するのは大事なことはあるが、外部要因とは何なのか、例示がないと、書き手によっては他省庁の仕事も外部要因だと考えることもあり得る。例えばインバウンドであれば為替レート、公共事業であれば物価高、資材価格の高騰及び人件費の変化といった経済要因が外部要因にあたり、他省庁の仕事は「参考情報（３）施策に関連する主な他省庁の事業」に書くべきものだと思う。外部要因について、念押しで例示をするか、他省庁の仕事は外部要因ではないという形の説明があった方がいいのではないか。（佐藤主光委員）

<文責：内閣府大臣官房政策評価広報課>